

English cafe vol.8

CONTENTS

COLUMN

いつかタイ山岳で心躍ファームステイを！

中学年のアルファベット単元で音遊びを取り入れる 栄利滋人

これが「スパイス」！～自分らしい授業を作ろう～ 岩渕知也

持続可能な帯活動

(Continuous Meaningful Activities for English Classes) 最上公博

「兄弟学級」とのプロジェクト活動で生徒は本気になる 八木一真

生徒の発信力を高める授業改善の実践

～中国雲南省教育交流から学んだ工夫と8つのステップ～ 本堂真登

「わかる、楽しい、もっと学びたい」授業を目指して 伊藤景子

Editor's note

授業を彩る「スパイス」自分らしさを引き出せ！

KAIRYUDO

いつかタイ山岳で心胸躍るファームスティを！

バンコクで日本語教師をしている友人から、コーヒーの花茶が届いた。タイ北部に住む山岳民族アカ族が営むコーヒー農園で、この希少なコーヒーの花茶が作られているという。コーヒーと言えば収穫時の赤い実の印象が強く、コーヒーの木に咲く可憐な白い花からお茶ができるとは想像したことがなかった。花はジャスミンのような香りがするらしい。早速レシピにしたがって、2gの茶花に400ccの割合でお湯を注ぎ5分待って、コーヒーの花茶を試飲してみた。かすかなコーヒーの香りの中に酸っぱさを感じる不思議なテイストのお茶である。

アカ族が住んでいるメーチャンタイ村は全部で約50世帯。日中暖かい1月でも夜は10℃を下回り、寒暖差から早朝には美しい雲海が見られるという。公共の電気や水道も通っていないので、村人たちが太陽光発電で山の湧水を家庭に引いているとか。アカ族のコーヒー農園は村の中心部からいくつかの峠を越えたところにある。日本を始めとする諸外国の支援を受けながら、最近ではコーヒー豆の収穫ボランティアツアーなどが企画されている。かつてこのあたりの山岳地帯ではケシの栽培が行われていたそう。しかし、「王室プロジェクト」で一斉に代替作物が栽培されるようになり、今はコーヒーが植えられている。



美しいコーヒーの実を、一粒一粒手で収穫する作業は大変だろうが、いつか体験してみたい。シンガポールやナイジェリアなどからもファームスティをしながらコーヒーチェリーの収穫を手伝いに来てくる若者が増えているという。山の湧き水を沸かして振舞われるアカ族自慢のコーヒーはそれだけで格別である。豊かな自然が育む環境でのティータイムは非日常の贅沢な楽しみでもある。

お土産のコーヒー花茶を通して、間接的にはあるが山岳民族のアカ族に出会った気分である。彼らの生活や文化にも興味を湧き、たとえ十分に言葉が通じなくても身振り手振りで交流し秘境の豊かな生活を味わってみたい。



お茶の魔法で、ゆったり自分らしく

異国の山岳で味わうお茶もいいが、タイの首都バンコクにはおしゃれなカフェがたくさんある。トロピカルな雰囲気も手伝い、若者からシニアまで大人気のカフェが軒を連ねている。

人々が集うところでは、お茶は必須アイテムである。笑顔で差し出される一杯のコーヒーはささくれた心に潤いを与えてくれる。お茶の魔法で気分も上がり、活力が湧いてくることも。気が重いことに向き合うための仁切り直しにもなる。



アジアの国々に足を踏み入れると、「人・食・自然」など様々なものになつかしさを覚え心の緊張がほぐれる。同じアジア人としての肌感覚や視点がそうさせるのかもしれない。お茶がコミュニケーションを促すスパイスにもなり、拙い外国語での会話も心地よく、ゆったりと自分らしく過ごすことができる。

マタギの里のクロモジ茶 Spice Tree Tea!

今年はコーヒー花茶に加え、東北のマタギの里でクロモジ茶に出会った。楊枝の材料になるクロモジ枝葉が原材料で、クロモジは英語でspice treeとも言うそう。確かに後味がスパイシーでカモミールとも違う野性的な香りである。飲み慣れてくると、ついつい人にも勧めてしまいマタギの里の豊かな恵みにほっこりしてしまう。何はともあれ秘境への郷愁を刺激するこの二つのお茶とはうれしい出会いである。

世界にはまだまだ味わったことのないお茶がある。コーヒーの代わりにいただく珍しい一杯が見知らぬ土地への空想を掻き立てられる。そして、その魅力を誰かに伝えたい。

料理に風味を与え味覚を刺激するのがスパイスなら、学びに多様な要素を加え学習意欲を刺激するような教師の工夫は、授業の「スパイス」だ。



「スパイス」を上手に使って子供たちの学びの発見や感動を引き出すアプローチを自分らしく仕上げてみたい。



中学年のアルファベット単元で音遊びを取り入れる

宮城県仙台市立国見小学校 教諭 柴利 滋人

「聞こえた通りに真似ができる 児童＋文字だとローマ字読み？」

中学年でALTと授業をするときは、学級担任が話す英語とALTが話す英語を敢えて対比的に見せるようにしている。いわゆるカタカナ英語をわざと使い、ネイティブの英語との違いを意識させる。児童の耳はとてもいい。ALTの発音を上手に真似して覚える。ところが、英語表記を見せるとローマ字読みが影響することが多い。書かれている英語と聞こえる英語の違いを不思議に感じている。小学生に合った文字と音をつなぐ活動を探っている。

「アルファベットは英語、 ローマ字は日本語、と教える」

ローマ字は国語の時間に3年生から大文字と小文字を習い、50音を書いて覚えるので日本語。一方、外国語活動でアルファベットソングを歌い、3年生で大文字、4年生で小文字を扱うので英語。いわゆるアルファベットの「名前読み」を覚える。しかし、ローマ字を英語と思っている児童は多い。ローマ字とアルファベットの区別をさせることが必要である。ところが、児童にとってはこの区別が分かりにくい。

「アルファベットは名前読みと音の 2つの読み方があることを教える」

イラストを使ってアルファベットには名前読みと音があることを音遊びで教えている。



名前はR（アー）音はrrr、名前はM（エム）音はmmm、名前はV（ヴー）音はvvv、名前はL（エル）音はl。英語はローマ字の読み方と少し違うことが分かるようになる。

「アルファベットの音遊びで 楽しく発音する活動を」

音遊びとは、音のイメージが湧くような紙皿イラストを作成し、音の楽しい話と動作で音を出す活動である。redが出てきた時は、rのイラストを提示し、歯で啜って引っ張ってr～red、Mondayが出てきた時は、満足気分のmだから唇を閉じてm～Monday、Very goodのVは、歯を唇に当ててクラクションの音でv～Very good、ballの時のLは、舌を下から上に動かしてキャンディを舐めてball、など授業で出てきた単語を使って音遊びで音を出していく。ALTがいる時は、この発音の仕方で合っているかどうかを確認して真似をさせる。



ペットがお気に入りの
ピンクの毛布を啜って
引っ張って「rrr」



レストランで好きな
ものを全部食べて満足気
分の「mmm」



前のトラックから野菜
が！クラクションを鳴
らして「vvvv」



大きなベロベロキャン
ディーを下から上にべ
ろっと舐めて「L」

フォニックスとして指導するというよりは、授業で耳慣れた表現から文字に注目させて、音遊びとして楽しみながら発音と文字に興味を持たせることが高学年につながる。



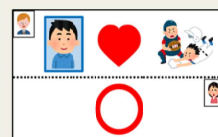
『これが「スパイス」！～自分らしい授業を作ろう～』

岩手県一関市立厳美中学校 教諭 岩瀬 知也

1. イラストを用いたやり取り指導を目指して

パワーポイントを使って、文字をイラスト化したやりとり指導を試みています。この指導では、既習や予習の内容をQA形式で作成し、英語でのやりとりを行います。下記は、右の図を文字化したものです。

Q: Does he like baseball? (上段)
A: Yes, he does. (下段)



これらのイラストでは、「like」をハート、「Yes」を丸で表現し、それぞれの意味を視覚的に示しています。この工夫により、生徒が語順を意識しやすくなります。

2. 教科書内容と受験指導を

うまく組み合わせることはできないか…

過去の入試問題ではテーマに従って自由英作文と条件作文が出题されています。例えば「What do you like to do on weekend?」という質問から、設問1では自分の立場で答え、設問2ではその理由を答えるという流れです。

設問1:
「Which do you like better, staying home or going out?」
設問2:
「Why do you like it better? Write about the good points.」
上記で示したような入試問題の傾向を踏まえ、実際に出題された問題に近いかたちで各単元の内容理解につながる実践を行いました。授業の流れは次の通りです。

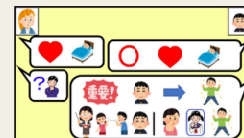
- ①会話の把握
パワーポイントとイラストを使い、どのような会話をしているかを理解します。
- ②即興での発話挑戦
やりとりのモデルを提示後、一度即興で自分の考えを言うことに挑戦します。
- ③教科書本文の理解
初見の内容理解や単語の意味確認を行い、本文の内容を把握します。
- ④フレーズの確認
本文の情報や概要を整理し、使えるようなフレーズを確認します。
- ⑤作文練習
パワーポイントを再提示し、自分の考えを文章として書いてみます。

例えば、『SUNSHINE ENGLISH COURSE 3』のPROGRAM 2では、「睡眠」についての話題が展開されています。これに基づき、次のようなコンテンツを作成しました。



【状況設定】

ALT: Hello, Taro and Hanako.
T&H: Hello, Sensei!
ALT: Today's topic is "Sleeping."
※ここでの生徒名は、TaroとHanako



【ダイアログ】

ALT: Do you like sleeping?
Taro: Yes, I do. I like sleeping.
ALT: Why?

Taro: It's important for me to stay healthy.
My teacher tells me that you should stay healthy.
※ALTとTaroのやりとりを、試験問題の形式に近づけて作成します。Taroの応答は、モデル文として活用できる内容にします。

【トピック：睡眠について】生徒作品例
Q: Do you like sleeping?
A: Yes, I do.
Q: Why?
A: It is because sleeping is important for students and we can stay healthy. I can study more after a sleeping.
※モデル文を示し、それを真似させて使わせる方法も効果的です。赤字は、見つかった間違いを示しています。

できるだけ教科書の内容と関連付けた活動を設定できないか試行錯誤しています。授業にはまだ粗さが残るものの、生徒が間違いを恐れずに書くことに積極的に取り組めるよう工夫していきたいと考えています。

【参考文献】
加藤み(2018)「小学校からの英語指導に自信がもてるスタートアップスキル」
教育技術研究所
東京学参株式会社(2024)『2025 年度 岩手県公立高校入試過去問題』



持続可能な帯活動

(Continuous Meaningful Activities for English Classes)

秋田県横手市立横手北中学校 教諭 最上 公博

外国語の授業におけるwarm-upの大切さを日々感じています。samll talkや既習の文型を用いたQ&A活動などを行ってきましたが、長続きしませんでした。samll talkは時としてtopicの選択に行き詰まりを感じ、Q&A活動もパターン練習に陥ってしまい、意味を考えずに問答しているケースもありました。

そこで、学習内容の定着を図りながら、コミュニケーション能力の素地を養うために毎時間継続可能な帯活動はないものかと考えました。そのためにはシンプルな取組ではあるが、内容には常に変化があり、やり甲斐のある活動が求められると感じました。

現在、私の授業のリズムをつくっている帯活動は2つあります。

1. Quick Talk (約6分)

これは教科書の内容や話題について、自分の考えを交えながら、絵や写真、キーワードを用いて英語で説明する活動です。JTEとALTが取り組み方を例示してからペアで練習します。聞き手は必ず相づちを入れて相手の説明に反応します。交互で行い、1ラウンド4分程度で終了します。慣れてきたら何人かに発表してもらい、生徒も英語で簡単な感想を伝えるようにします。内容は自ずと題材ごとに変わり、学習している単語や表現も活用できるので帯活動として行っています。

以下はQuick Talkの例です。

- ・関係代名詞を用いて身近な物を説明してみよう。
- ・ユニバーサルデザインの製品を説明してみよう。
- ・好きな本を紹介してみよう。
- ・教科書の内容に自分の考えを入れて、説明してみよう。
- ・自分のお勧めの場所も加えながら、登場人物になったつもりで観光地を紹介しよう。

2. Bingo (約7分)

Bingoを用いている方は多いと思います。私の取組は以下の通りになります。宿題として自宅

STEP①

事前にワークシートに記入します。それぞれの単語の意味を記入してから、Bingoシートに、単語を選んで記入します。これは宿題となります。

STEP②

ver.1 全体で単語の発音練習をして、緩りと音の関係を毎時間練習します。

ver.2 慣れてきたら、クイズ形式を用い、ペアで発音と意味を確認します。パートナーが発音した単語を聞き取り、意味を答えます。

STEP③

ペアでBingoを3分間行います。1周目の「ビンゴ」は5点、2周目は4点、3周目は3点、4周目は2点、それ以降は1点として、合計得点を比べて勝者(winner)と敗者(follower)を互いに確認します。

STEP④

敗者(follower)には、既習文型を用いたQ&Aを行います。最終的には勝者も巻き込んで、criss-cross形式のQ&Aになります。

授業では、この2つの帯活動を併用することもあります。Quick Talkは年間No.25～No.30、Bingoは1年間で120回行っています。

今後もALTの意見も取り入れながら、改善を加え、より良い活動にしたいと考えています。

Quick Talk #8

This worksheet is to S-T-4-E-T-G-H the English you already have.
Try to explain the following words.
How many words can you explain to your partner?
Use the English that you have learned.
Keep practicing. Then day by day you will be able to use English much better than now.

For example

① "Mr. Shimada"
He is a science teacher who teaches the 2nd grade students.
He is the manager of the baseball club.

② "sumo"
It's a sport which is traditional in Japan. It's a kind of wrestling.
Most sumo wrestlers are very, very big and strong. The strongest wrestler is called Yokozuna.

Continue (Talk with your partner in 60 seconds)
(List 58 words)

camera	baseball	monster	newspaper
koala	soccer	obake	your favorite
TV	judo	牛鬼を一人	restaurant
pen	baseball	Mr. Fuji	bike
pen case	volleyball	Onono river	some (さんどう)
chair	table tennis	Joze	video game
piano	kendo	Christmas tree	dictionary
watch	radio	army	pizza
tomato	yakimashi	oden	hamburger
banana	takeyoshi	お徳入を一人	uchi
cell phone	spaghetti	Namahage	Arumaru
spring	PC	Kasou (カソウ)	tanabata
summer	PSP	newspaper	kanakura
winter	karaoke box	raibaru	お徳入のオナマ
fall	will	Halloween	go (鬼)
tennis	shugi	chess	yakitori
karasu	combat	curry rice	
	carrom	carrom	

〈図1〉 QuickTalkワークシート(物の説明)



「兄弟学級」とのプロジェクト活動で生徒は本気になる

福島県新地町立尚英中学校 教諭 八木 一真

1. 「誰のために」「何のために」 その活動を行うのですか？

教科書の単元末に「私の尊敬する人についてスピーチしよう」という活動があったとします。クラスメートの前で発表をするものの、それが単なる暗唱発表会になってしまった経験はありませんか。筆者は何度もその経験があります。しかし、「誰のために」「何のために」活動を行うのが生徒たちにとって自分事となれば、生徒たちは本気で相手に伝え、スピーチに対してコメントを述べたり書いたりするようになります。今回はその取り組みの一つをご紹介します。



〈生徒作品〉 兄弟学級に生徒が送った詩

2. 「兄弟学級」を作り協働学習を仕掛ける

私は今年度、東京都の中学校に勤める英語教員仲間(同学年担当・同教科書を使用)と「兄弟学級」を作り、オンラインで交流授業を行いました。単元末のプロジェクト活動を、タブレット端末を使い、お互いの教室をつないで実施しました。交流授業では、生徒はメモのみを用いて、兄弟学級のペアに実際に語りかけるように1対1でスピーチを行います。そして、スピーチが終わったら、即座に相手からの即興のコメントや質問に対して受け答えをします。これを成功させるためのコツの一部を紹介します。



〈写真1〉 研究授業の場面



〈写真2〉 兄弟学級とのオンライン授業の場面

① 担当者同士で入念に生徒の情報や進捗状況を共有しておく

・生徒の特徴や英語力を考慮してペアリングすると交流授業が活性化します。

② 事前に、自己紹介やあいさつの手紙(英語)を送り合うことで生徒のワクワク感を刺激する

・できれば生徒が書いた現物をお互いの学校に送り実物を渡すことで、生徒の心が動きます。

③ いきなり本番を行うのではなく、教師が意図的に気づきや振り返りの機会を設ける

・兄弟学級の優秀な中間発表(動画または作文を紹介する)から学ぶ機会を単元計画に位置付けると、生徒はそれに触発されて自分の発表を振り返り、自己更新を続けていきます。

④ 交流授業後に最終動画や手紙を送り合う

・交流授業はゴールではありません。その後に最終スピーチを収録した動画を送り、交流授業のお礼の手紙(英語)を書いたりすることで、生徒にとって交流授業が真のつながり(レリア)となります。そして次の交流に向けてまた真剣に学習に取り組むようになります。

みなさんも兄弟学級との交流授業で、新たな協働学習を生徒に体験させてみませんか。



生徒の発信力を高める授業改善の実践 ～中国雲南省教育交流から学んだ工夫と8つのステップ～

岩手県立盛岡第一高等学校 教諭 本堂 真登

はじめに

令和6年11月25日～12月2日、岩手県教育委員会主催令和6年度雲南省教育交流推進事業（派遣）にて、岩手県と友好交流協力協定を結ぶ中国雲南省の英語教育を視察して参りました。統合型言語活動の工夫や、生徒が主体的に学ぶ場を作る工夫などを学ぶことができたこの経験を授業改善に取り入れ、生徒のアウトプットの質を高める取り組みを進めています。本稿では、主に単元のまとめやパフォーマンステストの準備等での実践例（Step1～8）を紹介いたします。

【Step1】 Visual Aidsを活用し、スキーマを活性化させる

単元のまとめとしての活動をVisual Aidsを活用して言語活動の目的・場面・状況のイメージを持たせます。teacher's talkや生徒同士のやり取り等を通して、生徒の学習意欲を高めると共に、学びの見通しを持たせ、アウトプットの質を高めるための足場かけ(Scaffolding)をねらいとしています。

【Step2】 プレインストーミング（ワードマップやメモ作成）

ここでは「書き過ぎないこと」を重視しています。文を書かせず、語や語句に留めることで原稿を読み上げる形式にせず、ある程度即興で英語を整理する流暢さ(fluency)の向上を目指しています。また、あえて短時間に設定することで、瞬時に考える力を高めることも意図しています。

Step1 [Brainstorming] Write Keywords

P	E	E	L
changing times	electronic AI computer	people interested in latest system	changing times changes system changes people
heavily old tradition is different	Japan Declining birthrate aging population	don't maintain tradition sad country	hard to create new tradition

【Step3】スピーキング

はじめは、頭の中で完全に整理できていない状態で、あえて話す活動を行います。これは、表現の自由度を高め、生徒が自分の言葉で表現することを促し、流暢さ(fluency)の向上に寄与すると考えます。時間が余った場合、聞き手がFollow-up Questionをするように指導しています。この質問が、後述のStep5(推敲)の際に役立ちます。また、このステップを通じて、「もっと上手に表現したい」という意欲やクラスメイトの発言から学ぶ自己調整力を引き出すことも目指しています。

【Step4】内容と深め方の共有

代表生徒と授業者がやり取りを行い、内容を全体で共有します。授業者からのfeedbackを通して、より発展的なアウトプットのためのTipsを共有します。

【Step5】推敲

Step3～4を基に、Step2を再度整理させます。ここでは、内容面の更なる充実を重視し、論理性や伝えたい内容の明確化を図ります。

＜左図の説明＞

“Which do you think is more important, keeping old traditions alive or creating a new tradition?” 自分の意見をPEEL (Point, Example, Explanation, Link) Paragraphで表現し合う活動。

【Step6】ペアを変えての反復練習

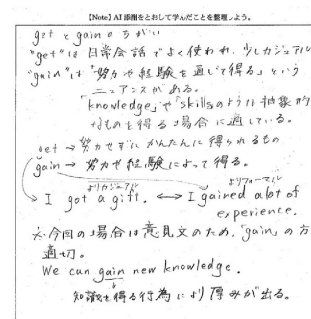
座席を規則的に移動させ、Step3～5の活動を繰り返します。反復練習では、複数の相手とのコミュニケーションを通して生徒の自己調整力が養われ、自信の向上にも繋がると考えます。

【Step7】ライティング

話した内容を基に書かせます。ここでは、正確さ(accuracy)にも意識を置かせます。

【Step8】AIを用いた自己添削

授業者が作成したプロンプトを活用したAIツールを用いて、生徒が自分の英作文を自己添削できる環境を整えました。たとえば、生徒は自分の英文を写真でアップロードし、AIから文法や表現の修正案を得ることができます。このツールは添削の手順、示し方のプロンプトがインプットされており、CEFR B1レベルの語彙範囲に限定されているので、生徒の負担を軽減しながら粘り強い学習を支援します。



＜生徒の振り返りから＞

生徒の自己添削時のメモ（例）：疑問点は追加で質問することでAIが解説してくれる

＜AIツール＞



ご自由にご活用ください。

おわりに

＜生徒の振り返りから＞

・話したい内容が難しくても、自分の中で言い換えて、自分の知っている単語や表現に少し置き換えられるようになった。

・(AIについて)ただ間違えた箇所を指摘するだけでなく、代案が表にまとまって出てきたり、追加に質問すれば、例文も提示して説明してくれたりなど、効率的で良かった。

以上、生徒が英語で考え、表現し合い、改善を重ねていくことで、発信力を高めることを目指した実践の一例です。今後も、様々な工夫（スパイス）を授業に取り入れ、授業改善に努めて参ります。



「わかる、楽しい、もっと学びたい」授業を目指して

秋田大学大学院教育学研究科 准教授 伊藤 景子

「わかる、楽しい、もっと学びたい」教科書を目指して、これは『中学校英語情報誌Sunshine Letter Vol.8(2024.5)』の巻頭言のタイトルです。この巻頭言を拝読したとき、公立中学校で外国語科担当教員としての生活をスタートさせた頃から授業づくりにおいて大切にしてきたことを思い出すきっかけとなりました。当時、中学校で初めて出会う英語に対して苦手意識をもってほしくない、そう願って試行錯誤したことが思い出されます。

小学校で初めて英語に触れる児童に対して「わかる、楽しい、もっと学びたい」授業を提供し、中学校への期待感をもたせて送り出すことを保障したいと考えます。高学年で外国語科を指導するようになって早5年、小学校教員の不断努力により成果が見られる一方、教員自身が経験した中学校の授業イメージにより言語材料が身に付いたかどうか重視される授業になっていないか懸念されます。それを回避するために、県や市町村の教育委員会を主体とした研修等を継続するとともに、各学校においても管理職のリーダーシップにより全教職員でよい授業のイメージを共有して授業改善につなげたいものです。

昨年度まで勤務していた大潟村では、2005（平成17）年度より「アルストロム アンド アソシエイツ有限会社」と契約し、ネイティブスピーカーである英語講師による英語活動「大潟村キッズイングリッシュサポートプロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）を行っています。英語のみの環境で進められる小学1年からの4年間60単位時間のプログラムを通して、児童が英語に興味を持ち、慣れ親しみ、「できた」「わかった」「今はわからなくてもだんだんわかってくる」という前向きな気持ちをもてることをねらいに実施しています。5、6年生に対しても継続して授業を行い、英語への興味・関心を高め主体的に学ぶ児童を育てるとともに、6年間の学びを中学校へと円滑に接続することを目指しています。十分な準備期間を経た児童は、自信と自ら学ぶ力を携えて中学校へと進みます。



【「本プロジェクト」指導上の主な留意点】

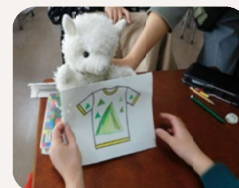
- ・最も大切なのは、全ての活動を通して、子どもに「わかる」「できる」という自信を付けさせ、英語習得に向けて前向きな気持ちを育むことである。何を教えるか（覚えるか）よりも、どのような環境で英語に慣れ親しむのかといった環境づくりを重視する。
- ・英語を話す際、ジェスチャーやイラストなどの視覚的補助を多用することにより、英語だけでも「何となくわかる」という気持ちをもたせる。
- ・間違えたりできなかつたりしても目立たないよう学級一斉に発話する環境をつくる。
- ・英語で話す際、natural speedを心掛け、より自然な形で英語に慣れ親しませるようにする。

中学校では、初めて英語に触れる生徒を指導するという意識を払拭し、小学校で4年間学習してきた生徒を引き受け、小学校の教材、内容、方法を生かして既に身に付けている資質・能力をより確かなものにする覚悟が必要だと思えます。小中の教員同士の情報交換や授業参観は当たり前に行われるようになってきています。年度始めに、中学校外国語科担当教員から中学校区の小学校外国語科担当教員に電話するなどして、一年間気軽にやり取りできるきっかけづくりをすることをおすすめします。一度やり取りするとハードルが下がり、小中連携がスムーズにする一助となるのではないのでしょうか。

Editor's note

授業を彩る「スパイス」 自分らしさを引き出せ！

さて、英語の授業が「美味しく」なるための指導者はどんな「スパイス」を常備しているのだろう。「クスッと笑える授業づくりがスパイス」と話していたのは若い外国語専科の教師である。彼女は授業に白いアルパカのぬいぐるみを持ち歩いている。その名はモッチー。モッチーも時々授業に参加する。彼女は子供たちにこんな感じで話し掛ける。「ねえ、みんな！モッチーもTシャツがほしいんだって。みんなで作ってあげようか？」すると子供たちは「うん。つくってあげる！」と大はしゃぎである。「じゃあ、みんなでモッチーに好きな色を聞いてみるよ。」子供たちは大きな声でWhat color do you like? とモッチーに問い掛ける。「今度はどんな形がいいか聞いてみようか。」「What shape do you like?」と質問を続ける子供たち。モッチーの声は教師のにわか腹証術である。子供の発達段階を上手く生かし、遊び心満載の活動である。小学校教諭の得意とするところであり、子供たちをその気にさせ教室の雰囲気も柔らかくなる。



「生徒同士の関りや活発なコミュニケーションを目指す工夫」がスパイスと答えた英語科の先生は、修学旅行で訪れる京都の観光地と地下鉄の路線図を組み合わせて道案内の授業を計画した。修学旅行に向けて準備が始まるこの時期に、生徒にとってタイムリーな話題を授業に生かすという着眼点がいい。

何より子供目線で活動の素材を探すひたむきに頭が下がる。修学旅行が待ち遠しい生徒は、うっかり（？）英語の授業にのめり込む。



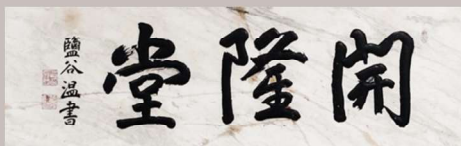
「英語が好き、外国への興味関心・他国の文化を知りたいという思いがよりよい授業につながるスパイス」と控えめに話してくれたのは講師の先生。異文化への憧れは英語を学ぶ上での大きな動機になる。教師としての経歴より、英語が大好きだという先生に教えてもらえる子供たちは幸せだ。それだけで世界が広がり見えてくるものが違ってくる。教えることが好き、英語が好きという思いは、忘れたくない大切な「スパイス」だ。

教師はどんなスパイスで子供が輝くのかを知っている。荒削りであってもその人らしさが生きる授業は熱量が高い。シンプルで自分らしい授業づくりの「スパイス」。

あなたならどんな「スパイス」を何って授業づくりをしますか。

僕もまぜて！





2026年、開隆堂は100周年を迎えます

～ 御 礼 ～

令和8年（2026年）10月18日、弊社は創立100周年を迎えます。
これまで続けてこられたのも、諸先生方をはじめ、関係者の皆様や読者の皆様のご支援とご尽力のおかげにはかたじけありません。深く感謝申し上げます。

今後とも、わが国の未来を担う子どもたちのために、教育への貢献を果たして参る所存です。100年という節目を迎え、新たな歩みを始める弊社に、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

History ～1～ 英語の開隆堂

JACK AND BETTYの時代

開隆堂創業者・中村寿之助は、秋田県平鹿郡陸合村（現横手市）で生まれ育ちました。その後上京し、1926年に開隆堂書店を設立し、1946年に開隆堂出版として創立しました。

民間教科書会社の第一号として1948年に発行した教科書が、英語教科書「JACK AND BETTY」です。おかげさまで、発行部数4,000万部を超える教科書のベストセラーとなりました。本書は、「生」のアメリカの文化や生活を生き生きと伝えることに注力していました。

当時の若者が憧憬の念を込めて見つめ、知りたがっていたアメリカ人の生活を、「英語の学習」という教科書本来の目的と絶妙にミックスさせることに成功したのです。それまでの文法主体の内容で構成された学問中心の教科書とは一線を画し、多大な共感を集めました。

実践することを目的とした「JACK AND BETTY」に流れる“生きた教育”をめざす教科書づくりの姿勢は、わたしたちの教育理念の“核”として開隆堂の中に今日まで脈々と受け継がれています。



昭和24年度用
「JACK AND BETTY」



昭和29～36年度使用
「JACK AND BETTY」

to be continued.

本資料は「教科書発行社行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

English cafe 非売品 Vol.8

2025年3月31日 発行
<https://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03-5684-6111
QRコードはデンソーウェブの登録商標です。

発行 開隆堂出版株式会社 東北支社
東北支社 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-10-7
サンライン第66ビル5階 ☎022-742-1213